vRealize Operations Manager 6.5 リリース ノート

更新日 2017年03月28日

VMware vRealize Operations Manager Appliance 6.5 | 2017 年 3 月 2 日 | ビルド 5097674

VMware vRealize Operations Manager 6.5 PAK Updates | 2017 年 3 月 2 日 | ビルド 5097678

VMware vRealize Operations Manager 6.5 Endpoint Operations Agents | 2017 年 3 月 2 日 | ビルド 5041485

更新日：2017 年 3 月 28 日

本リリース ノートに対する追加情報およびアップデート情報を適宜確認してください。

リリース ノートの概要

このリリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- 新機能
- システム要件
- vRealize Operations Manager のインストールとアップデート
- 以前のリリースから解決した問題
- このリリースにおける既知の問題
- 以前のリリースからの既知の問題

新機能

New セキュリティ アドバイザリへの対応パッチ

- 2017 年 3 月 13 日、重大な特権昇格の脆弱性が発見されました。この脆弱性の詳細は VMSA-2017-0004 に記載されています。この問題を解決するには、KB 2149591 に記載されている公開パッチをインストールしてください。

製品の機能拡張

vRealize Operations Manager 6.5 では、製品の拡張性の制約とトラブルシューティングを中心に機能を強化しています。

- モニタリング機能の強化

    - 同じ環境内でメモリ量を増やしてモニタリング範囲を拡大する機能が加わりました。
    - プラットフォームの最適化により、同じ占有量でより大規模の環境をモニタできます。
    - XL サイズのノードで監視できるオブジェクトと処理できるメトリックが増えました。
- Endpoint Operations Agents の自動アップグレード：
    - 新しい Endpoint Operations Agent アップグレード バンドルは、vRealize Operations Manager ユーザー インターフェイスから自動でエージェントをアップグレードできます。
- トラブルシューティング機能の強化:
    - vRealize Operations Manager で Log Insight を使用して、監視対象のオブジェクトのコンテキストでログとメトリックを迅速に関連付けます。
    - 最も関連性のあるメトリックにフォーカスできるカスタム メトリック グループを作成します。
- コラボレーションの強化:
    - カスタム グループのエクスポートとインポートを簡素化し、異なる vRealize Operations Manager インストール環境間でのダッシュボードの共有がしやすくなりました。
    - vRealize Operations Manager から vRealize Business for Cloud にアクセスして、プライベート クラウドのコストとパブリック クラウドの支出を把握できます。

全般的な改善事項

- Predictive DRS (pDRS) の拡張性の制約を排除しました。
  Predictive DRS により、vRealize Operations は長期的な予測メトリックを提供して、vSphere Distributed Resource Scheduler (DRS) の短期的な配置基準を拡張することができます。
- 次のグローバル設定のデフォルト値が変更されました。
    - 削除されたオブジェクト：360 時間から 168 時間に変更されました
    - アクション履歴: 90 日から 30 日に変更されました
    - シンプトム/アラート：90 日から 45 日に変更されました

  これらのデフォルト設定は、新しく vRealize Operations 6.5 をインストールした後にのみ有効になります。

- スコアボード ウィジェットの色設定を無効化できます。
- アップデート プロセスが最適化されました。
  環境のサイズと監視対象のオブジェクトの数に応じて、最大 40% 高速化される可能性があります。

上記の機能強化の詳細については、[vRealize Operations Manager 6.5 VMware 製品ページ]を参照してください

システム要件

vRealize Operations Manager のインストールやアップデートを実行する前に、このセクションをお読みください。

サイジングおよびスケーリング

特定の環境のニーズを満たす CPU、メモリおよびディスクの要件は環境内のオブジェクトおよび収集されたデータの数や種類によって異なります。これにはインストールされているアダプタの数と種類、HA（高可用性）の使用、データ保持の期間、関心のある特定のデータ ポイントの数が関係しています。ナレッジ ベース記事 KB 2093783 のサイジングとスケーリングに関する情報が最新の内容に更新されています。このナレッジベースの記事には全体的な上限、およびオブジェクトの数および監視対象とするメトリックに基づいて推奨値を提示するスプレッドシート計算が含まれます。

導入形式

次のインストール形式で vRealize Operations Manager 6.5 を導入できます。

- VMware 仮想アプライアンス
- RHEL インストール パッケージ

注意：vRealize Operations Manager 6.4 は、Microsoft Windows 環境をサポートする製品の最終バージョンになりました。Windows ベースで vRealize Operations Manager 6.4 を実行している場合は、vRealize Operations Manager 6.5 の新規 OVA インストールを行ってください。

vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスを展開する場合は、VMware vSphere Client を使って VMware vCenter Server に接続し、vCenter Server インスタンス経由で仮想アプライアンスを展開します。vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスは、ESX/ESXi 5.1 U3 以降が VMware vCenter Server 5.1 Update 3 以降によって管理するホストに展開する必要があります。

注意：vRealize Operations Manager 6.5 では RHEL ベースのインストール オプションが完全にサポートされていますが、このサポートは廃止される予定です。RHEL のオプションの将来の可用性については保証されません。

Linux ベースのオプションではなく、VMware の仮想アプライアンス オプションの使用をお勧めします。Linux ベースのオプションの提供終了 (EOA) の発表は、将来のリリースで行われる予定です。

Linux の要件

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.5、6.6、および 6.7 オペレーティング システム上で、スタンドアロン バージョンの vRealize Operations Manager をインストールおよびアップグレードできます。

ライセンス キーの適用

オペレーティング システム インスタンス (OSI) 単位のライセンスに加えて、プロセッサ (CPU) 単位の vRealize Operations Standard エディションもあります。vRealize Operations の他のエディションのライセンスは、変更はなく、引き続き OSI 単位で販売されます。

ユーザーは、複数の Advanced および Enterprise エディションを単一の vRealize Operations Manager デプロイにインストールできます。ユーザーは、単一ライセンスとスイート ライセンスを一緒にインストールできます。個別のライセンス キーのライセンス カウントはライセンス グループによって処理されます。異なるエディションまたはライセンス モデルは、次のいずれかの方法で併用することができます。

- 1 つの環境に vSphere with Operations Management（任意のエディション）および vRealize Operations Standard を同時にデプロイする。
- 1 つの環境に vCloud Suite/vRealize Suite Standard/Advanced/Enterprise と、vRealize Operations Advanced/Enterprise エディションを同時にデプロイする。

注意：同一環境で vRealize Operations Standard エディション ライセンスを Advanced または Enterprise ライセンスと一緒にデプロイすることはできません。

vRealize Operations Manager インスタンスに割り当てられているライセンス キーは、パワーオン状態の仮想マシンのみをカウントします。ライセンス モデルを遵守するには、過去 365 日間のパワーオン仮想マシン平均数をカバーする十分なライセンスが必要です。

コンプライアンス アラート

お使いの vSphere 6.0 および 5.5 オブジェクトのコンプライアンスを確保するため、vRealize Operations Manager 6.5 には、VMware vSphere セキュリティ強化ガイド バージョン 6.0 および 5.5 用のコンプライアンス アラートが含まれています。これらのセキュリティ強化ガイド アラートは、オブジェクト タイプに基づいています。

ソリューションのサポート

VMware ソリューション（vSphere、Endpoint Operations Management、vRealize Log Insight）、およびその他多数のソリューションについては、Solution Exchange マーケットプレイスの互換表を参照してください。これらのソリューションは、仮想アプライアンスの単一ノードまたは複数ノード、RHEL の単一ノードまたは複数ノードの構成で機能します。

TLS サポート

vRealize Operations Manager では、TLS (Transport Layer Security) 1.0 がデフォルトで有効化されています。TLS 1.0 は TLS に代わるバージョンで、外部製品との vRealize Operations Manager の互換性

を実現するために有効化されています。
TLS 1.0 を無効にするには、KB 2138007 を参照してください。

VMware 製品の互換性

この vRealize Operations Manager リリースは、次の VMware 製品との互換性が保証されています。

- VMware vSphere 5.5 以降
- vRealize Hyperic 5.8.5 以降
- vRealize Infrastructure Navigator 5.8.5 以降

ブラウザのサポート

この vRealize Operations Manager リリースでは、現在のすべての Web ブラウザがサポートされています、ただし、このリリースでテストされているのは次のブラウザのみです。

- Google Chrome：バージョン 53 および 54
- Mozilla Firefox：バージョン 48 および 49
- Microsoft Internet Explorer：バージョン 11

ページのトップへ

vRealize Operations Manager のインストールとアップデート

注意：古いバージョンの vRealize Operations Manager（6.0.x または 6.1）をアップグレードする場合は、2 段階のアップグレードを行う必要があります。まず vRealize Operations Manager 6.3 にアップグレードしてから、vRealize Operations Manager 6.5 にアップグレードする必要があります。最近のバージョンの vRealize Operations Manager（6.4、6.3、6.2、または 6.2.1）を使用している場合は、vRealize Operations Manager 6.5 に直接アップグレードできます。

vRealize Operations Manager インフォメーション センターには、インストールおよびソフトウェア アップデートに関する詳細情報があります。

vRealize Operations Manager のインストールまたはアップデートの前に、次のガイドをダウンロードすることもできます。

- 『vRealize Operations Manager vApp デプロイおよび構成ガイド』は vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスのガイダンスです。
- 『Linux 用 vRealize Operations Manager インストールおよび構成ガイド』は Red Hat Enterprise Linux 上の vRealize Operations Manager に関するガイダンスです。

注意：vRealize Operations Manager のインストールまたはソフトウェアのアップデートに関する問題については、新しい既知の問題の「インストールとアップデート」セクションを参照してください。該当する可能性があるインストールまたはアップグレードに関する古い既知の問題もいく

つかあります。これらの問題を参照するには、下部の表示・非表示を切り替えるリンクからコンテンツを展開してください。

ページのトップへ

以前のリリースから解決した問題

このセクションには、今回のリリースで解決された以前の既知の問題のタイトルを掲載しています。

- vRealize Operations Manager バージョン 6.4 のリリース ノートに記された Predictive DRS 使用時のクラスタあたり仮想マシン 4,000 台の制限は解消されました。

このリリースにおける新しい既知の問題

前回の製品リリース以後に判明した新しい既知の問題について、次のようにグループ分けして説明します。

- New：インストールとアップデートの問題
- New：全般的な問題

New：インストールとアップグレードの問題

- **EP OPs エージェント 6.3 から 6.5 へのアップグレードが失敗することがある**
  大規模環境でエージェントの数が少ない場合、EP Ops エージェント 6.3 から 6.5 へのアップグレードが失敗することがあります。これは、vRealize Operations ユーザー インターフェイスで利用できるサマリ レポートに示されます。
  回避策：**[すでにインストールされている場合でも PAK ファイルをインストールします]** のオプションをチェックして、再度エージェントのアップグレードを試みます。

New：全般的な問題

- **vRealize Operations Manager で [コンテキストでの起動] を使用するときの vRealize Business for Cloud for vRBC の最小バージョンは 7.2.1**

- **Internet Explorer 11 を使用して Log Insight および [ビジネス マネジメント] タブのページやダッシュボードにアクセスするときにデータがブロックされる**
  Internet Explorer 11 を使用して新しい Log Insight および [ビジネス マネジメント] タブのページやダッシュボードにアクセスすると、データがブロックされてページが空のままになります。
  回避策：Firefox または Chrome ブラウザを使用してください。

- **vRealize Operations Manager はスタンドアロン モードの vRealize Business for Cloud でのみ機能します**
  vRealize Operations Manager はスタンドアロン モードの vRealize Business for Cloud でのみ機能します。vRealize Business for Cloud の他の導入シナリオは使用できません。
  回避策：なし。

- **vRealize Business for Cloud を vRealize Operations Manager に統合するときに、追加する vRealize Business インスタンスを 1 つだけにする必要がある**
  vRealize Business for Cloud を vRealize Operations Manager に統合するときに、追加する vRealize Business インスタンスを 1 つだけにする必要があります。複数の vRealize Business for Cloud インスタンスを追加すると、vRealize Business for Cloud の最初のインスタンスのデータのみが [ビジネス マネジメント] タブに表示されます。
  回避策: vRealize Business インスタンスを 1 つだけ追加してください。

- **Log Insight または [ビジネス マネジメント] ダッシュボードから生成された PDF レポートにログイン画面のイメージが表示される**
  Log Insight または [ビジネス マネジメント] ダッシュボードで PDF レポートを生成すると、ダッシュボード関連のコンテンツではなく PDF レポート ファイルに、常にログイン画面のイメージが表示されます。
  対処法：なし

- **オブジェクト リスト ウィジェットでフィルタが機能しない**
  オブジェクト リスト ウィジェットで、フィルタを使用してウィジェットの列のデータを探すことができません。
  回避策：なし。

- **[ソリューションの管理] ダイアログ ボックスの [アクションの有効化] の詳細設定が無効化される**
  [ソリューションの管理] ダイアログ ボックスで [詳細設定] セクションの [アクションの有効化] の項目が無効化されます。今回のリリースの仕様です。
  回避策: [詳細設定] セクションの上にある [アクションの有効化] ボタンを使用してください。

- **個々の仮想マシン ステータスを表示すると、メッセージ「ライセンスが無効です」が表示される**
  vRealize Operations Manager で個々の仮想マシン ステータスを表示すると、「**ライセンスが無効です**」メッセージが背景に表示されることがあります。
  対処法: 該当するグループにライセンス キーを割り当て、ライセンス使用量を更新します。

ページのトップへ

以前のリリースからの既知の問題

以前からの既知の vRealize Operations Manager の問題については、ここをクリックしてください。